

# 編修趣意書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
31-94	中学校	国語	書写	1・2・3
発行者の番号・略称		教科書の記号・番号		教科書名
15 三省堂		書写 702		現代の書写 一・二・三

## 1 編修の基本方針

# 社会生活に生きる書写の力

未来を担う学習者が、この教科書を通して自分の文字をよりよくしていきながら、社会生活の中で生かせる書写の力を獲得することを目指しました。

## 社会生活に生きる書写の力



この教科書は、教育基本法に掲げられた目標および学習指導要領の目標を達成するために、次の5点を基本方針として編修しました。

## ① ひとめでわかる学習内容

- 学習の見通しをもち、自覚的に学習を進め、次の学びへの意欲が得られるように構成しました。
- 毛筆で学習する教材は見開き2ページで構成し、全ての教材に学習目標と振り返りを設置しました。また、各教材の冒頭に「書き方を学ぼう」を設置し、当該教材で学習すべき書き方のポイントを提示しました。

## ② ポイントの明確化「書き方を学ぼう」

- 日常生活・社会生活の中で活用できる「学び方」を身につけることを重視しています。
- 教材冒頭の「書き方を学ぼう」では、当該教材で学習すべき書き方のポイントを提示しました。「どこに気をつけて、どのように書けばよいか」について、具体的な字形例とともに示すことで、習得すべき書き方のコツを明確に捉えられるよう工夫しています。

## ③ ふだんの自分の文字に生かす「書いて身につけよう」

- 学習した内容を、多様な場面で自覚的に活用する力をつけることを重視しています。
- 毛筆で学習したあとに、さまざまな文字を硬筆で書いて練習する「書いて身につけよう」を設置しています。毛筆で学習した内容を、繰り返し書いて習得し、ふだんの自分の文字に生かすことができるようにしています。

## ④ 豊かな文字文化にふれる

- 身のまわりの文字文化にふれて、知識を蓄え、文字文化の担い手として自らを豊かにする誘いとなるような教材を設けました。
- 現代まで受け継がれてきた文字の歴史や文化などを取り上げました。身のまわりの文字文化にふれることで、文字の役割や、文字を手書きすることの意義を認識することをねらいとしています。

## ⑤ 小学校書写との連携、高等学校芸術科書道への接続

- 書写の基礎・基本的な知識や技能を確認しながら身につけると同時に、書写・書道に関する幅広い興味をもつきっかけとなるような教材を設定しました。
- 小学校書写での学習内容と円滑に接続を図ることができるよう、「基礎編」や楷書の教材では、小学校での学習内容を整理して示しました。また、3年の教材では、「篆刻」に関する内容や、中国・日本の優れた筆跡を紹介し、書道への関心が広がるよう工夫しています。

## 2 対照表

教育基本法第2条各号に示す教育の目標との対照について、主な教材を取り上げ、教科書の該当ページを示しました。

図書の構成・内容		特に意を用いた点や特色	該当箇所 (ページ)
学年	教材名	*教育基本法第2条各号に関連する学習のねらいを示します。	
	口絵・目次	● 広大な海の向こうから朝陽が昇る写真を示すことで、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養うことをねらいとしています(第四号)。	表2~1
	基礎編	● 望ましい姿勢と執筆のあり方を、写真を用いてわかりやすく示すことで、健やかな身体を養うことをねらいとしています(第一号)。	8~12
1年	[1] 楷書		
	字形の整え方と筆使い／ 点画の種類と筆使い	● 小学校で学習した楷書の基礎的・基本的な知識や技能を復習しながら身につけることで、幅広い知識と教養を獲得することができるようにしています(第一号)。	14~19
	○書いて身につけよう 字形の整え方	● 書き込み欄および振り返り欄を通して学習を捉え直すことで、自主および自律の精神を養うことができるようにしています(第二号)。	20~23
	◆学びを広げる 活字と手書き文字・筆順	● 活字と手書き文字の違いや筆順についての理解を深めることで、学校生活や社会生活に生きる、文字に関する幅広い知識と教養を獲得することができるようにしています(第一号)。	24~25
	[2] 楷書と仮名		
	仮名の字形と筆使い／ 文字の大きさと配列	● 平仮名の成立をいろは歌とともに示すことで、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する態度を養うことをねらいとしています(第五号)。	26~29
	○書いて身につけよう 仮名の字形／ 文字の大きさと配列	● 書き込み欄および振り返り欄を通して学習を捉え直すことで、自主および自律の精神を養うことができるようにしています(第二号)。	30~33
	◆学びを広げる 文字の変遷	● 平仮名の字源となった漢字の歴史を示すことで、伝統と文化を尊重するとともに、他国を尊重する態度を養うことをねらいとしています(第五号)。	34~35
	[3] 行書		
	行書の特徴／点画の丸み／ 点画の連続／点画の形や方向の変化	● 中学校で新しく学習する行書の基礎・基本を習得するための解説コーナーを設定することで、幅広い知識と教養を身につけることをねらいとしています(第一号)。	36~43
○書いて身につけよう 点画の丸み／点画の連続／ 点画の形や方向の変化	● 書き込み欄および振り返り欄を通して学習を捉え直すことで、自主および自律の精神を養うことができるようにしています(第二号)。	44~47	
◇やってみよう グループ新聞を作ろう	● グループで新聞を作る活動を設定することで、自他の敬愛と協力を重んずる態度を養うことをねらいとしています(第三号)。	48~49	

図書の構成・内容		特に意を用いた点や特色	該当箇所 (ページ)
学年	教材名	*教育基本法第2条各号に関連する学習のねらいを示します。	
2 年	<b>[1] 行書</b>		
	点画の省略／筆順の変化	●中学校で新しく学習する行書の基礎・基本を習得するための解説コーナーを設定することで、幅広い知識と教養を身につけることをねらいとしています(第一号)。	50～53
	○書いて身につけよう 点画の省略／筆順の変化	●書き込み欄および振り返り欄を通して学習を捉え直すことで、自主および自律の精神を養うことができますようにしています(第二号)。	54～57
	<b>[2] 行書と仮名</b>		
	行書と仮名の調和／ 行書に調和する仮名	●毛筆字形例として「豊かな実り」を取り上げることで、四季のめぐりに思いをはせ、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養うことをねらいとしています(第四号)。 ●平仮名の成立をいろは歌とともに示すことで、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する態度を養うことをねらいとしています(第五号)。	58～61
	○書いて身につけよう 行書と仮名の調和／ 行書に調和する仮名	●書き込み欄および振り返り欄を通して学習を捉え直すことで、自主および自律の精神を養うことができますようにしています(第二号)。	62～63
	<b>[3] 楷書と行書</b>		
	楷書と行書の使い分け	●自ら書体を選択し、その理由を考えることによって、自主および自律の精神を養うことができますようにしています(第二号)。	64～65
	◇やってみよう 情報誌を作ろう	●グループで情報誌を作る活動を設定することで、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことをねらいとしています(第三号)。	66～67
	◆学びを広げる 部分別行書一覧表	●行書のさまざまな書き方を理解し使うことで、幅広い知識と教養を身につけ、真理を求める態度を養うことができますようにしています(第一号)。	68～71
3 年	<b>[1] 文字文化の豊かさ</b>		
	身のまわりの文字	●安土桃山時代から現代までの「伝達」に関連する文字文化を示すことで、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことをねらいとしています(第三号)。 ●「手書き文字」の魅力を伝え広めながら社会で活躍する人物を取り上げることで、職業および生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うことをねらいとしています(第二号)。	72～75
	◇やってみよう 名言集を作ろう	●これまでに出会った言葉を集めて名言集を作る活動を設定することで、個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、自主および自律の精神を養うことをねらいとしています(第二号)。	76～79
	◆学びを広げる 書の古典〈発展〉	●現代まで受け継がれてきた優れた筆跡を取り上げることで、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する態度を養うことをねらいとしています(第五号)。	80
資料 編	日常の書式	●さまざまな書式や時候の挨拶を理解し使うことで、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する態度を養うことができますようにしています(第五号)。	82～89
	書写の広場	●毛筆の用具が作られる工程を示すことで、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養うことをねらいとしています(第四号)。	90～128

### 3 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

#### ▶ 全ての学習者が学習しやすい紙面づくり

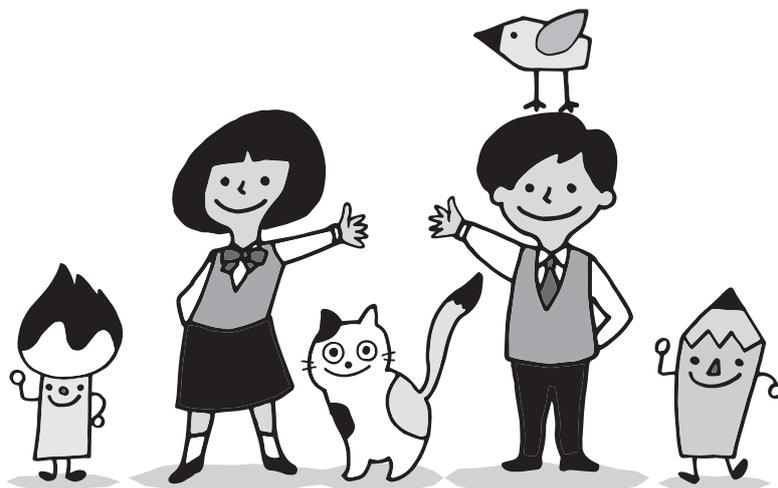
- ユニバーサルデザインに配慮しています。特別支援教育ならびにカラーユニバーサルデザインの専門家の指導と校閲のもと、識別しにくい配色は避け、形や記号・番号、説明文などの補助的な手がかりを設けました。また、色の濃淡や罫線の使い分けなどで違いが明確になるようにすることで、誰もが使いやすい教科書となるよう工夫しました。
- 学習をサポートする役割をもったキャラクターを用いることで、学習者が知識・技能の理解や習得をスムーズに行えるよう工夫しました。また、写真やキャラクターの男女バランスにも配慮しています。

#### ▶ 環境にやさしい教科書

- 用紙については、環境の保護、資源の節約のため、原料や製法に配慮した、環境にやさしい紙を使用しています。
- インキについては、植物由来の油および、それらを主体とする廃食用油等をリサイクルした再生油を含んだ、印刷インキ工業連合会認定の植物油インキを使用しています。

#### ▶ 小学校書写・高等学校芸術科書道との接続

- 小学校書写での学習内容との接続を図るために、「基礎編」を設けて姿勢や執筆のあり方を復習したり、1年の冒頭教材では楷書の書き方を復習したりするなど、構成を工夫しました。
- 高等学校芸術科書道を見据え、1年では「文字の変遷」、3年では「書の古典（発展）」を設定し、現代まで受け継がれてきた文字の歴史や優れた筆跡等を取り上げました。また、3年の「名言集を作ろう」では「篆刻」に関する内容も取り上げました。



# 編修趣意書

(学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
31-94	中学校	国語	書写	1・2・3
発行者の番号・略称		教科書の記号・番号		教科書名
15 三省堂		書写 702		現代の書写 一・二・三

## 1 編修上特に意を用いた点や特色

### ▶ ひとめでわかる学習内容

- 各教材を見開き2ページで構成し、全ての教材に学習目標と振り返りを設置しました。教材冒頭の「書き方を学ぼう」では、書き方のポイントを取り上げ、各教材で学習すべき内容がひとめでわかるように工夫しています。

教材構成の例：1年p.42「点画の形や方向の変化」

**1 目標を確かめて学習の見通しをもつ。**

**2 書き方のポイントをつかむ。**

**3 点画の形や方向の変化**

**4 書き方のポイントを意識して毛筆で書く。**

**5 教材で学んだことを振り返る。**

**6 硬筆で繰り返し書いて、学びを確かめる。**

**7 単元を通して学んだことが実際に活用できているかを確認し、自分の言葉でまとめる。**

1年 p.44 書いて身につけよう「点画の丸み／点画の連続／点画の形や方向の変化」

## ▶ ポイントの明確化「書き方を学ぼう」

- 「書き方を学ぼう」では、「どこに気をつけて、どのように書けばよいか」について、具体的な字形例とともに書き方のポイントを示しました。習得すべき書き方のコツを明確に捉えられるように工夫しています。

1年 p.26  
「仮名の字形と筆使い」

1年 p.40  
「点画の連続」

2年 p.50  
「点画の省略」

2年 p.58  
「行書と仮名の調和」

資料編 p.125  
「書き方を学ぼう」一覧

## ▶ ふだんの自分の文字に生かす「書いて身につけよう」

- 「書いて身につけよう」では、毛筆で書いて習得したことを、硬筆で書く際にも活用できるように、硬筆による書き込み欄を複数設けました。繰り返し書くことを通して、社会生活に生きる書写の力をつけることができます。

1年 p.20  
「字形の整え方」

2年 p.54  
「点画の省略／筆順の変化」

- はがきの宛名や、教科名、都道府県名等も取り上げ、学習したことを社会生活の中で生かせるように工夫しています。

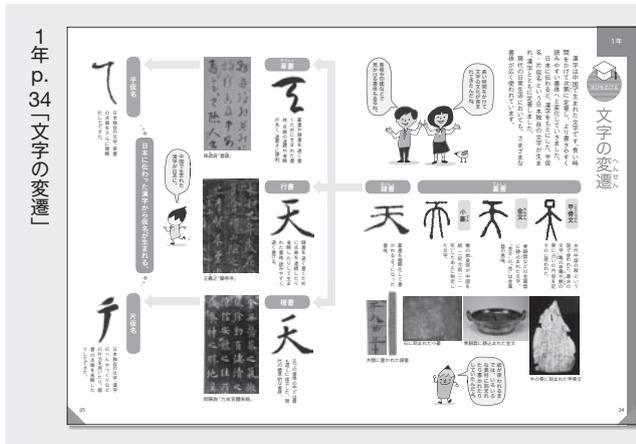
1年 p.32「仮名の字形／文字の大きさと配列」

1年 p.46「点画の丸み／点画の連続／点画の形や方向の変化」

2年 p.56「点画の省略／筆順の変化」

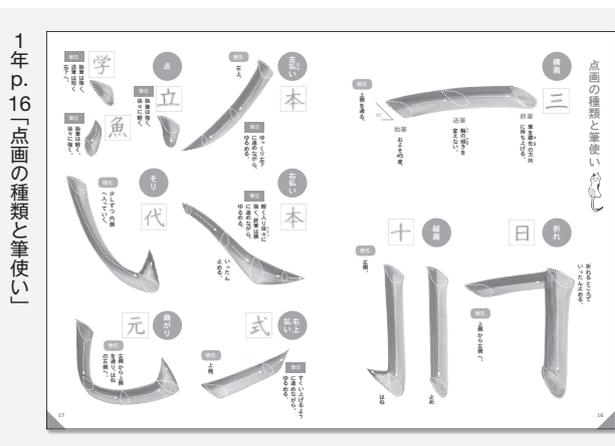
## ▶ 豊かな文字文化にふれる

- 1年「文字の変遷」では、現代まで受け継がれてきた文字の歴史や文化を取り上げました。身のまわりの豊かな文字文化にふれることで、文字を手書きすることの意義を認識することができます。
- 3年「身のまわりの文字」では、手書き文字の魅力を伝え広めながら社会で活躍する人物を取り上げました。文字を手書きすることの意義を認識するとともに、職業観を養えるよう工夫しています。



## ▶ 小学校書写との連携、高等学校芸術科書道への接続

- 「基礎編」や楷書の教材では、小学校での学習内容を整理して示しました。小学校書写での学習内容と円滑に接続を図ることができるよう配慮しています。



- 3年の教材では「篆刻」に関する内容や、「書の古典」として中国・日本の優れた筆跡を紹介しました。高等学校芸術科書道への興味・関心が広がるよう工夫しています。



## 2 対照表

学年	図書の構成・内容 [教材名]		学習指導要領の内容	該当箇所 (ページ)	配当 時数
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・「朝のリレー」</li> <li>・この教科書で学ぶ皆さんへ</li> <li>・自分の文字を書き残そう</li> </ul>		表2～1 4～5 6	
<b>基礎編</b>					
	学習の はじめに	<b>【毛筆】</b> 姿勢と構え方／大筆の持ち方／小筆の持ち方・構え方／筆の運び方／用具の扱い方 <b>【硬筆】</b> 姿勢と構え方／鉛筆の持ち方		8～12	適宜
<b>本編</b>					
1 年	[1] 楷書	字形の整え方と筆使い	●工(ア) 字形を整え、楷書で書くこと。	14～19	2
		点画の種類と筆使い		16～17	
		○書いて身につけよう 字形の整え方(点画・部分・外形)		20～23	1
		◆学びを広げる 活字と手書き文字・筆順	●工(ア) 字形を整え、楷書で書くこと。	24～25	1
	[2] 楷書と仮名	仮名の字形と筆使い	●工(ア) 字形を整え、文字の大きさ、配列などについて理解して、楷書で書くこと。	26～27	2
		文字の大きさと配列		28～29	2
		○書いて身につけよう 仮名の字形／文字の大きさと配列		30～33	1
		◆学びを広げる 文字の変遷	●工(ア) 字形を整え、文字の大きさ、配列などについて理解して、楷書で書くこと。 ●工(イ) 漢字の行書の基礎的な書き方を理解すること。	34～35	1
	[3] 行書	行書の特徴	●工(イ) 漢字の行書の基礎的な書き方を理解して、身近な文字を行書で書くこと。	36～37	1
		点画の丸み		38～39	2
		点画の連続		40～41	2
		点画の形や方向の変化		42～43	2
		○書いて身につけよう 点画の丸み／点画の連続／点画の形や方向の変化		44～47	1
		◇やってみよう グループ新聞を作ろう	●工(ア) 字形を整え、文字の大きさ、配列などについて理解して、楷書で書くこと。 ●工(イ) 漢字の行書の基礎的な書き方を理解して、身近な文字を行書で書くこと。	48～49	2

学年	図書の構成・内容 [教材名]		学習指導要領の内容	該当箇所 (ページ)	配当 時数
2年	[1] 行書	点画の省略	●ウ(ア) 漢字の行書の書き方を理解して、読みやすく速く書くこと。	50～51	3
		筆順の変化		52～53	3
		○書いて身につけよう 点画の省略／筆順の変化		54～57	1
	[2] 行書と仮名	行書と仮名の調和	●ウ(ア) 漢字の行書の書き方とそれに調和した仮名の書き方を理解して、読みやすく速く書くこと。	58～59	3
		行書に調和する仮名		60～61	3
		○書いて身につけよう 行書と仮名の調和／行書に調和する仮名		62～63	1
	[3] 楷書と行書	楷書と行書の使い分け	●ウ(イ) 目的や必要に応じて、楷書又は行書を選んで書くこと。	64～65	2
		◇やってみよう 情報誌を作ろう	●ウ(ア) 漢字の行書の書き方とそれに調和した仮名の書き方を理解して、読みやすく速く書くこと。 ●ウ(イ) 目的や必要に応じて、楷書又は行書を選んで書くこと。	66～67	2
		◆学びを広げる 部分別行書一覧表	●ウ(ア) 漢字の行書の書き方を理解して、読みやすく速く書くこと。	68～71	2
3年	[1] 文字文化の 豊かさ	身のまわりの文字	●エ(ア) 身の回りの多様な表現を通して文字文化の豊かさに触れること。	72～75	5
		◇やってみよう 名言集を作ろう	●エ(ア) 身の回りの多様な表現を通して文字文化の豊かさに触れ、効果的に文字を書くこと。	76～79	5
		◆学びを広げる(発展) 書の古典	●エ(ア) 身の回りの多様な表現を通して文字文化の豊かさに触れること。	80	
<b>資料編</b>					
	日常の書式	①便箋と封筒の書き方 ②はがきの書き方 ③時候の挨拶・頭語と結語 ④送り状・のし袋・願書・原稿用紙の書き方		82～83 84～85 86～87 88～89	適宜
	書写の広場	文房四宝／楷書・行書一覧表／平仮名・片仮名・数字・アルファベット／毛筆補充教材／書き初め(1～3年)／「書き方を学ぼう」一覧		90～128	適宜

# 編修趣意書

(発展的な学習内容の記述)

受理番号	学校	教科	種目	学年
31-94	中学校	国語	書写	1・2・3
発行者の番号・略称		教科書の記号・番号		教科書名
15 三省堂		書写 702		現代の書写 一・二・三

ページ	記述	類型	関連する学習指導要領の内容や 内容の取扱いに示す事項	ページ数
76	篆刻について知ろう	1	高等学校 芸術科書道 I 3 内容 A 表現 ア 用具・用材の特徴を理解し，適切に扱うこと。  4 内容の取扱い (4) 内容の A の指導に当たっては，篆刻，刻字等を扱うよう配慮するものとする。	0.25
80	書の古典	1	高等学校 芸術科書道 I 3 内容 B 鑑賞 イ 見ることを楽しみ，書の美しさと表現効果を味わい，感じ取ること。 ウ 日本及び中国等の文字と書の伝統と文化について理解すること。	1
合 計				1.25

(「類型」欄の分類について)

- 1…学習指導要領上，隣接した後の学年等の学習内容（隣接した学年等以外の学習内容であっても，当該学年等の学習内容と直接的な系統性があるものを含む）とされている内容
- 2…学習指導要領上，どの学年等でも扱うこととされていない内容